

分科会第 2 クール検討の視点（各WG、各分野共通）

< 検討の目的 >

中期的・長期的視点での需要創出、供給力強化

・需要創出

財政・金融政策による短期的な需要下支えや新規需要創出と並んで、中期的な視点から、潜在的需要の顕在化の支障となっている規制・制度を見直し、新たな雇用の創出を目指す。また、大胆な改革に乗り出す姿勢を示すことにより、停滞状態からの変化に関する国民の間での期待の形成に資する。

・供給力強化

中長期的な視点から、少子高齢化社会の中で供給力が成長制約とならないよう、新規参入や競争を促進する規制・制度改革により生産性向上を目指す。

< 検討に当たって重視すべき点 >

消費者、利用者、一般国民の便益の向上

サプライサイドなど多様な利害関係者（ステークホルダー）の意見を聴きつつ、基本的には消費者、利用者、一般国民の便益向上を図ることを第一とする。その際、消費者、利用者、一般国民の間でも異なる立場の意見があり得ることに留意する。

政策目的に合致した合理的な政策手段の選択

政策目的を達成するための手段としての規制について、これに係る社会的コストに配慮し、事前規制から事後チェック行政への転換を図る。

< 検討に当たっての留意点 >

現場、地域の意見、ニーズ重視

現場の視点で問題点を抽出する。改革案の検討に当たっても、「実効性がある」、「現場でワークする」ものとなるよう、現場、地域の意見、ニーズを重視する。

多角的意見を踏まえた議論

規制を見直すことで新たに生じ得る、例えば消費者等の安全性確保や労働者の良好な労働環境の確保などへの懸念も考慮し、適切に判断する。

オープンな議論

政策の決定過程を国民に開かれた形とする。その際、率直な意見交換が行われるような環境に配慮しつつ、分科会、WG、ヒアリングその他の場に関して、それぞれ適切な情報公開の手法をとることとする。